

第26回桜まつりを終えて

狭山市文化団体連合会と狭山市観光協会の共催による第26回桜まつりは、3月29日(土)と30日(日)に開催予定で準備を進めてきましたが、初日の29日(土)は夜半からの冷雨のため中止となりました。

当日関係者が8時半に集合、協議の結果中止を決定しましたが、翌日は天気回復の予報だったので、舞台と控室等のテント設営作業を雨天下で続行し準備を終えました。出演予定で準備を進めていた10団体は発表の機会がなくなってしまい誠に残念でした。

2日目の30日(日)はうって変わった好天となり、桜も七分咲きの素晴らしい条件となりました。8時半集合後開演準備作業で、舞台絨毯敷き込み、ブルーシート清掃・敷き込み、テント目隠しの紅白幕設置、客席作り等慌ただしく作業を進め、全員協力の結果作業終了。10時30分文団連小川会長の挨拶によりオープニングとなりました。

オープニングでは七夕の妖精「おりぴい」が並び一緒に挨拶。おりぴいはその後も客席周辺を回り、子供たちと一緒に写真に納まったり、舞台の音楽に合わせてダンスを踊り芸達者ぶりを披露しました。

舞台は静かで優雅な狭山太極拳クラブの演技によりスタート。その後、三曲連盟と秩父高校生徒による邦楽演奏、日本舞踊連盟の日舞、レイレファのフラダンス、司会MASARUさんの歌謡ショー、一般公募団体のハーラウ・オ・レファ・オ・カラニのフラダンス、Kirari☆による歌謡ポップス、1Ace Dance Studio

のヒップホップダンス、狭山オカリナクラブのオカリナ演奏、さやま・川の街合唱団による大人数での合唱と続き、フィナーレの「狭山ふるさと音頭」では合唱団の歌唱に合わせて客席の周りを踊って、盛大に終了することができました。

それぞれの団体にはいろいろな工夫があり、桜にちなんだ楽曲が数多く取り上げられていて、なじみ深いものになりました。、華麗な日本舞踊の演舞や、躍動感のあるヒップホップ、そしてフラダンスでは大人数での演技を楽しむことができました。最後の合唱は老若男女の大勢でのボリュームたっぷりの歌で心に響くものがありました。

舞台の両脇には7店の模擬店が出店、狭山市の姉妹都市新潟県の津南町から同地の名産品の販売がありました。また園内通路には観光協会の呼びかけによるキッチンカー4店と公園許可の4店が出店、食の楽しさの提供と賑やかさを演出していました。

終了後は短時間で撤収作業が完了、ごみ処理も完璧できれいな公園に戻すことができました。皆様のご協力ありがとうございました。

第26回桜まつり実行委員長 中村 伶華

